

抗がん剤療法指示票
E-01(No.87)

アブラキサン+ゲムシタビン療法（膀胱がん）

（進行・再発）

第（ ）回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署	外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医	
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師	

通常投与量 : アブラキサン125mg/m²、ゲムシタビン1000 mg/m²

投与間隔 : 3週投与、1週休薬

[施行決定医]

前回最終投与日	①	8	月	1	日	(8	月	曜)
	②	8	月	8	日	(8	月	曜)
	③	8	月	15	日	(8	月	曜)

②、③が中止の場合は、日付を変更せずスキップする

※アブラキサンは特定生物由来製品のため使用の際には説明および同意必要。

(特定生物由来製品指示せん必要)

投与方法		1回目	2回目	3回目
①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢) <Dr>	実施時間		
		実施印		
②	生理食塩液100mL+アロキシ0.75mg+デキサート6.6mg (30分) <Ns>	実施時間		
		実施印		
③	生理食塩液100mL +アブラキサン【 】mg 《参考投与量 216.3 mg》 [125mg/m ²] (30分) <Dr>	実施時間		
		実施印		
④	生理食塩液50mLフラッシュ (全開) <Ns>	実施時間		
		実施印		
⑤	生理食塩液100mL +ゲムシタビン【 】mg 《参考投与量 1730.0 mg》 [1000mg/m ²] (30分) <Dr>	実施時間		
		実施印		
⑥	生理食塩液50mL (末梢の場合終了抜去) ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>	実施時間		
		実施印		

投与、減量の目安は次ページ参照

※定期的に胸部X線検査を実施すること (間質性肺炎のリスクあり)

◎投与の目安

<第1日目(各コース開始時)>

好中球数が $1,500/\text{mm}^3$ 以上、血小板数が $100,000/\text{mm}^3$ 以上で投与可

<第8及び15日目>

第8日目		
	投与前血液検査(/ mm^3)	対応
①	好中球数1,000超かつ 血小板数75,000以上	投与量変更なし
②	好中球数500以上1,000以下 又は 血小板数50,000以上75,000未満	1段階減量
③	好中球数500未満 又は 血小板数50,000未満	休薬

第15日目		
投与前血液検査(/ mm^3)	第8日目での血液検査の結果	対応
好中球数1,000超 かつ 血小板数75,000以上	①の場合	投与量変更なし
	②の場合	第1日目投与量に増量可
	③の場合	1段階減量
好中球数500以上1,000以下 又は 血小板数50,000以上75,000未満	①の場合	投与量変更なし
	②の場合	第8日目投与量に同じ
	③の場合	1段階減量
好中球数500未満 又は 血小板数50,000未満	①～③の場合	休薬

投与後、好中球数が7日以上にわたって $500/\text{mm}^3$ 未満となった場合、血小板数が $50,000/\text{mm}^3$ 未満になった場合、又は発熱性好中球減少症が発現した場合、次回以降の投与量を減量すること。

高度(Grade3)な末梢神経障害が発現した場合、軽快又は回復(Grade1以下)するまで投与を延期し、次回以降の投与量を減量して投与すること。

◎減量の目安

減量段階	アブラキサン	ゲムシタビン
通常投与量	$125\text{mg}/\text{m}^2$	$1000\text{mg}/\text{m}^2$
1段階減量	$100\text{mg}/\text{m}^2$	$800\text{mg}/\text{m}^2$
2段階減量	$75\text{mg}/\text{m}^2$	$600\text{mg}/\text{m}^2$

抗がん剤療法指示票
E-02(No.40)

TS-1+ゲムシタビン併用療法
(胆道がん)

第 () 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法	医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@	指示受け看護師				

投与間隔 : 3週間毎1クール

[施行決定医]

前回最終投与日	① 8月1日 (月曜) 第1日目(ゲムシタビン)	
/	② 8月8日 (月曜) 第8日目(ゲムシタビン)	

ティーエスワン【 】mg【 】錠 分2 (2週投与1週休薬) (/) 印
(8 / 1(月) 夕 ~ 8 / 15(月) 朝) 2週間分 (第1日目 夕 ~ 第15日目 朝)

体表面積	1日用量
1.25m ² 未満	TS-1(20mg) 4T 分2 (80mg/日)
1.25m ² 以上1.5m ² 未満	TS-1(25mg) 4T 分2 (100mg/日)
1.5m ² 以上	TS-1(20mg) 6T 分2 (120mg/日)

※60mg/日の場合は、TS-1(20mg) 3T 分2 (朝2T、夕1T)

※ワ-ファリン、フェニチン併用時は出血、てんかん発作のリスクあるため注意

投与方法

		1回目	2回目
①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢) <Dr>	実施時間 実施印	
②	グラニセトロンバッグ3mg (不要の場合は消すこと) +デキサート6.6mg (不要の場合は消すこと) 30分で点滴 <Ns>	実施時間 実施印	
③	生理食塩液100mL+ゲムシタビン【 】mg 《参考投与量 1730.0 mg》 [1000mg/m ²] 30分で点滴 <Dr>	実施時間 実施印	
④	生理食塩液50mL ※ただしポートを使用している場合は ヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>	実施時間 実施印	

※骨髄抑制

白血球数2000以上、血小板7万以上で投与可

**抗がん剤療法指示票
E-04**

GC療法(ゲムシタピン+シスプラチン)

(ショートハイドレーション)

第 () 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師	
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

投与間隔 : 3週間毎1クール(2週投与、1週休薬)

シスプラチン 25mg/m²、ゲムシタピン 1000mg/m²

[施行決定医]

前回最終投与日	/
---------	---

①	第1日目	8月1日	(月曜)	シスプラチン・ゲムシタピン
②	第8日目	8月8日	(月曜)	シスプラチン・ゲムシタピン

※ 腎機能障害予防のため、当日 OS-1 500mL 2本、翌日OS-1 500mL 2本 飲むこと

投与方法		1回目	2回目
①	生理食塩液500mL+硫酸Mg補正液8mL (ポート・末梢) <Dr>	120分 実施時間 実施印	
②	生理食塩液100mL+アロキシ0.75mg+デキサート9.9mg イメンド125mg 1カプセル服用(②の開始時) <Ns>	30分 実施時間 実施印	
③	20%マンニトール 300mL <Ns>	30分 実施時間 実施印	
④	生理食塩液500mL +シスプラチン()mg [25mg/m ²] 《参考投与量 43.3 mg》 <Dr>	120分 実施時間 実施印	
⑤	生理食塩液100mL +ゲムシタピン()mg [1000mg/m ²] 《参考投与量 1730.0 mg》 <Dr>	30分 実施時間 実施印	
⑥	生理食塩液50mL(末梢の場合終了後抜去) ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>	実施時間 実施印	

副作用対策

翌日より服薬開始

デカドロン 4mg	2錠(8mg)/朝	3日分
ファモチジン(20mg)	1錠 朝	3日分
イメンド(80mg)	1錠/朝食後	2日分

[① / 処方・印]
[② / 処方・印]

★ OS-1を購入して、持参するよう説明する

※骨髄抑制 白血球数 2000/mm³以上、血小板数 7万/mm³以上で投与可
※クレアチニンクリアランス 60mL/min以上で投与可